

1 この科目の構成について

教 科	英語	科 目	英語表現 I	単 位	1 単位
対象コース	情報ビジネスコース	対象クラス	3年7組		
使用教科書	Vision Quest English Expression I core				
使用副教材	Vision Quest English Expression I core workbook, Vision Quest 総合英語 Ultimate				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学 習 目 標	—この科目を学習して何を身に付けてほしいのか—
	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養います。
学 習 内 容	—この科目で学習する大まかな内容—
	まずModel ConversationとListening Taskを通してダイアログの内容とそのレッスンで習得する内容を確認します。Sound sやFunctionを通して発音や英語の元として持つ機能について学習します。これは自分が発信する場合にはもちろん、英語を聞き取る場面でも大変必要な知識となります。 Build-up とそれに続く Practice ではそのレッスンの文法的側面から学習します。Use It や準拠 Workbook を通して文法に基づいた確認作業や運用練習をした後、Expressing, Activity を通して与えられた話題について新しく得た知識なども取り入れて、積極的にコミュニケーションを図る練習をします。
学 習 方 法	—この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか—
	(1) 学校 習ったことを積極的に使う 授業内には活動の場が多く取り入れられています。今習ったことをその場で使うことで自分の身に付けることができます ノートの取り方に工夫をする ノートは左が説明、右がExerciseなどの演習となります。板書だけでなく、間違ったところや重要など ころは線を引いたり、メモをするなどノートを取る際も積極的な姿勢が必要です。 (2) 家庭 予習、復習を必ず行いましょう 予習は教科書のExerciseがそれにあたります。教科書のGrammarや参考書Vision Quest総合英語を 参考に自分で解きましょう。また復習として準拠Workbookに取り組んで下さい。 Model ConversationやGrammarのページは必ず音読しましょう 音読は英語の基本です。授業中だけでなく、家庭学習の中心に位置づけて下さい。

3 この科目の評価方法について

評 価 方 法	—何をを使って評価するのか—
	定期考査60% 授業への参加状況10% 課題提出20% 小テスト(英単語など)10%
評価における定期考査の割合	60%

4 この科目の評価の観点について

評 価 の 観 点	—この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか—
	1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度 主に授業中の活動を通して評価します ①間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている ②積極的に周囲とコミュニケーションを図ろうとしているかが評価の観点となります(10%) (2) スピーキングやライティングを通して計る表現の能力 Use ItやExpressing, Activityでの発表を通して評価します(10%) ①英語らしい発音で発話している ②自分のことや与えられた課題について話す ③紹介するトピックを決めて、原稿を準備し発表する ④学んだ文法を使って、文章を書くことが出来る (3) リスニングやリーディングを通して計る理解の能力 授業中の課題の点検や提出された課題の内容などを通して評価します。またListening Taskや周囲の活動の理解度なども評価の参考とします(20%) (4) 言語や文化についての知識・理解 小テスト(10%)や定期考査(60%)また授業中の課題の解答確認などを通して評価します ・それぞれのページで学んだ文法を理解し、それを知識として定着させている

5 この科目の学習計画について

年間学習計画		—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—	重視する評価の観点					
期	月	学 習 の 項 目	学 習 の 内 容		関	思	技	知
1	4	lesson 12 I wish it were possible to get it back	話題 悩み事：Model Conversation で悩み事についての会話におけるアドバイスの方法を学ぶ。Expressing では悩んでいる人への助言や提案ができる。 発音 聞こえなくなる音：語尾の子音が次の語頭の音との関係で発音されなくなるものを学ぶ。英語ではよく語と語がまとまって発音されることを知り、その聞き取りができる。		○	○	○	○
	5	第1回考査	機能 助言する／提案する：頻出表現を学び、相手の状況や自らの立場に応じて適切なニュアンスで助言や提案ができる。また、それに対する応答ができる。 文法 仮定法：仮定法を用いて事実と違うことや実際には起こり得ないことを述べるができる。					
	6	ワークブック						
		Option ③ 否定	文法 否定を表す形容詞・副詞・部分否定を復習します。				○	○
	7	Option ④ 接続詞	文法 様々な接続詞を復習します。				○	○
		第2回考査						
	2	8	Option ⑤ 疑問詞	文法 様々な疑問詞節を復習します。				○
	9	Option ⑥ 代名詞	文法 様々な代名詞を復習します。				○	○
		以降						
		ワークブックの発展編を用いた演習活動になります。						